

# SHOSAKU事務所版 『雪国』

駅

駅

雪国（原文 川端康成）

国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。

夜の底が白くなった。

信号所に汽車が止まった。

向側の座席から娘が立って来て、島村の前のガラス窓を落した。

雪の冷気が流れこんだ。

娘は窓いっぱいになり出して、遠くへ叫ぶように、

「駅長さあん、駅長さあん。」

明りをさげてゆっくり雪を踏んで来た男は、襟巻で鼻の上まで包み、

耳に帽子の毛皮を垂れていた。

雪国ではなかった（改定 花房尚作）

国境の長いトンネルを抜けると雪国ではなかった。

頭の中が真っ白になった。

信号所に汽車が止まった。

向こう側の座席から娘が立ってきて、私の前のカラスを食べた。

カラスは娘の中に流れ込んでいった。

娘は腹いっぱいになって、遠くへ叫ぶように、

「死神さあん、死神さあん。」

大きな鎌を持ってやってきた男は、

フード付きの真黒なコートで全身を包み、

その姿はガイコツだった。

私は己の死を知った。



文章：花房尚作

制作/著作権：SHOSAKU 事務所

E-mail：info@sho39.com

H.P：http://www.sho39.com